

I 研究主題と副題

未来に希望をもち、主体的に学び続ける子どもの育成

～1人1台端末時代に即した「新しい学び方」を身に付けさせるための授業改善を通して～

II 主題設定の理由

国富町では、「未来に希望のもてる国富を創り支える教育の展開」を活動の指針として、「第六次国富町総合計画」に示す「心豊かでいきいきと輝く人づくり」を目指し、「くにとみ教育ビジョン」の「元気」「つながり」「ふるさと」「自立」をキーワードとした教育をすすめている。

本教育研究センターでは令和3年度より、町内のすべての子どもたちに1人1台のタブレットが導入されたことを受け、研究内容をICTの特性や利点を活かした授業改善を通じたものと設定した。令和5年度国富町教育委員会重点取組には、ICTを効果的に活用した「学力の3つの資質・能力をバランスよく身に付けさせる学習活動への転換」、インターネットの日常的活用を前提とした「情報モラル教育の推進」とある。アナログとデジタルを融合したハイブリットの授業を展開し、予測が難しいこれからの社会を生き抜く上で必要な資質・能力の育成を重点取組として掲げている。

児童生徒1人1台のタブレット導入2年目となる昨年度は、児童生徒がタブレットを文具として主体的に使えるようになるための手立てを、教科等の指導と情報モラルに係る指導の2点で研究を進めることとした。教科等の指導については、タブレットの有用性に関する検証授業を、また、情報モラルに係る指導では、静岡大学 塩田真吾准教授の指導・支援のもと、情報モラル教育に係る取組の検証を行った。研究全体を通して、ICTを効果的に活用することで生み出した時間の活用のあり方や、発達の段階に応じた情報モラル教育の系統的な指導のあり方についてさらに研究を進めていくことが課題として挙げられた。

そこで本年度は、過去2年間の研究を踏まえて、子どもたちの実態と発達の段階に応じた情報モラル教育の取組を深めていくとともに、学力の3つの資質・能力をバランスよく身に付けさせる学習活動のあり方について研究を進めていくこととした。

研究を推進していくに当たって、町内児童生徒を対象とした情報モラルに係る調査を実施し、その分析をもとに、「GIGAワークブックみやざき」（令和5年度 宮崎県教育委員会）を活用した授業の検証を通して、子どもたちの実態と発達の段階に応じた情報モラル教育のあり方について研究を進めた。また、西米良村立村所小学校及び西米良中学校の訪問において、「新しい学び方」とICTの活用方法について情報収集をし、研究員間で議論を深めた後、学習指導過程の工夫の1つである「予習型授業」の検証を通して、学力の3つの資質・能力をバランスよく身に付けさせるための学習活動のあり方について研究を進めた。

新型コロナウイルス感染症が5類となったことで、4年ぶりに活動の制限がなくなり、定期的な研究員会及び年4回の検証授業を実施することができた。また、令和5年8月の国富町教育講演会では、文部科学省学校DX戦略アドバイザー 辻慎一郎氏と研究員とのパネルディスカッションを行うなど、外部からの指導・支援を通して研究を深めることができた。本教育研究センターの取組が、町の教職員や児童生徒の安全・安心で効果的なICT活用を促すとともに、社会を生き抜くために「自立・自走」できる子どもの育成に寄与することを期待したい。